

わがまち紹介
活動疑問を
解明する

5月18日、史跡芥川城跡に「三好芥川城の会」の方3名に案内して頂き見学・散策に行ってきた。

二つの疑問点があり、解明したいと思いい「高槻市文化財課」に問い合わせし、回答を得ましたので公開します。

ひとつめ

史跡芥川城跡は、山城で細い山道を登ります。途中の古井戸までは狭い山道です。この古井戸から絶景が見える休憩スポット更に山頂への道は狭くて急な登山道です。「武士は、細狭くて急な山道の上り下りは出来るとしても、お姫さん達ほどの様にして、お城迄の行き来をしたのだろうか」と疑問を持ちました

解答

山城なので基本的には徒歩で登城し、上級者（お姫さん含む）であれば可能などところは駕籠や輿、あるいは馬に乗ったと考えられます。おそれから毎日上り下りをしてい

たわけではなく、不便ながら山上で生活していました。



山道に使用した「山駕籠」

ふたつめ

VG 槻輪は、平成18年12月、わがまち紹介活動で高槻西国街道を散策し芥川町を訪問しました。「高槻市殿町8」に芥川城跡地があります。



芥川城跡地の碑
西国街道芥川宿の北側

この三好山の史跡芥川城跡と二つの城跡があります。この二つの城は実質どのような使い方をされていたか「知りたい」。

解答

殿町の芥川城跡ですが、かつて芥川に所在する「殿ノ内」という地名から三好長慶らの城はこ

こにあったと考えられていました。

一方で、三好山の芥川山城（のちの史跡芥川城跡）の調査研究が進む中で、平時は殿町（平城）、戦時は三好山（山城）を使ったというように想定もありました。

近年の国史跡指定に先立つ総合調査の結果、文献史料に記される「芥川城跡」が、西国街道の芥川宿に隣接する殿町ではなく三好山であることが明らかになりました。戦国時代の史料には天神馬場から芥川城までが一〜二里（約4〜8km）と記されており、殿町ではないことが明らかです。また、殿町の芥川城跡に関する記載も江戸時代の後半までしか遡らないことが確認できました。

このことから、殿町の芥川城跡地は三好長慶とはほぼ関係がないと考えられます。

ただし、殿町周辺に地名を冠する芥川氏のなんらかの施設があった可能性は否定できません。それでもその施設は当時の史料上に頻出する芥川城跡とは別のものであったと言ふことになりす。

会員だより

三好山山頂の

史跡芥川城跡に登る!!

5月中旬だといふのに30度ごえの猛暑日を記録し、3月下旬から宮城県沖の地震や5月に入り能登半島沖を震源とする地震がおこつたりしていました。

VG 槻輪「わがまち紹介」活動で、5月18日高槻市営バスで、上ノロバス停に降り立ちました。



絶景が味わえる休憩スポット

山頂にちかづくくと、途中山城跡が見え隠れし、陽が差し明るくなつて元気が出てきました。摂津の国最大の山城です。（1500年代）天下人三好長慶の城でした。晴れた山頂からは市内は勿論大阪市まで一望できました。

塚脇ルートの下山道は、5月7日の記録的大雨の後で注意力がいりました。無事、全員下山出来ました。

私達の前後を「三好芥川城の会」のお三方が見守って下さいました。説明もして頂きました。

有難う御座いました。お昼は、祥風苑で昼食でした。その美味しかったこと!!

また一つわが高槻の知識が増えました。

記：宝角弘枝

家族誌

「うからやから」
第13号発行!!

VG 槻輪のOG、上村サト子さんから、5月20日発行の家族誌（A4判16頁製本）「うからやから」を郵送して下さいました。

「うからやから」とはご主人の祖父の短歌の中の「うからやから」一族郎党の意味から家族誌の名前をとられました。



家族誌第13号

家族誌「うからやから」は、直系のお子さんやお孫さんは勿論、ご主人の親戚関係とサト子さんの親戚関係を含めた「うからやから」家族に原稿を依頼され、それを纏められている家族誌です。

「うからやから」を讀ましていただくと、各家族はこの家族誌を楽しみにしておられるのがよくわかります。

彼女の努力にエールを送ります。家族誌作りを継続して下さい。

記：編集部